

研修名 保育内容研修 4（発達）

平成27年8月5日(水)10:00～12:30

講演「発達がわかれば子どもが見える～幼児期の発達の魅力と保育・子育て」

講師 田中 真介 氏

1 講演要旨

1) 自我・自己信頼性の発達プロセス

- ◆自我・自己信頼性…人間を支え、彩る
(散逸連関) ; 社会的交流活動の展開

⇩

(上部連関) ; 認知・言語 (+自我と社会性)
(基本関連) ; 手指操作 (+自我と社会性)
(下部連関) ; 全身運動 (+自我と社会性)
(生理的基礎) ; 生理的機能～生活リズム

⇩

(内部連関) ; 自我の育ち (価値の感受)

- 1歳前半「1次元形成」⇨自我の芽生え
- 1歳後半「1次元可逆」⇨自我の誕生
1歳半の発達の飛躍に必要な力は？
 - ①「モット！」…好きになる力
 - ②「イヤヤ！」…拒否できる力
 - ③大人～友だちの存在～交流…
 - ④価値の発見…道具・言葉・自我
 - ⑤よりよい子育て・保育環境
- 2歳前後「大文字1次元」⇨自我の拡大・多様な表現
1・2歳での「自我」「遊び」「心の支え」
 - 自我の拡大
(自分を大事に→自他の尊重へ)
 - ⇩
 - 心の支え ⇨ 大文字の1次元
(自我が母港から外洋へ) (遊びの展開)
 - ↓
 - 「2次元」の世界へ

- ・ 2～3歳「2次元形成」⇔自我の充実
- ・ 4歳半ば「2次元可逆」⇔自励心／自制心
- ・ 5歳代「3次元形成」⇔自己形成視／自己多面視
- ・ 6歳ころ「新しい力」⇔視点変換～価値の共有

2 感想

初めにチンパンジーと人間の赤ちゃんについての話を聞いた。人間は、ミルクを飲む時に人の目を見てコミュニケーションを図るが、チンパンジーは目を見ようとはしない。また、生まれて来る時も人間は産声を上げるがチンパンジーは上げないこと、人は怪我をした時に誰かに訴えるが、チンパンジーは声を出さないということを教えて頂きました。その話を聞き、人間は誕生した時から誰かに関わって生きている生き物だと改めて思いました。また、ビデオ資料を観させて頂いたことにより、発達年齢それぞれに大切な力がついてくるということがわかりました。

人間が生きていく為には、人との関わりがあつてこそということ、生まれた時から気持ちのやりとりをして生きているので、0歳から大切に子育て、保育をしたいと思いました。また、0歳～発達が繋がっている所以、各年齢での保育をつなげて考えていけるようにもしていきたいと思いました。

(記録 向日市立第1保育所 加藤 亮一)